

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第21回理事会

平成8年11月

インドネシア元慰安婦ルポ番組(下)

プリスル
検証

意図的に暗部強調

存在知る人は少數

現地教科書にも記述なし

性)をもつた特集が組まれた。しかし、その特集は、現地の教科書にも記載されておらず、実際を示す写真も「あたひ」時代のもので、現地の教科書では「元慰安婦」として紹介されることが多い。一方、有力紙「ブルータン・サンバタ」は、元慰安婦として紹介されることが多い。しかし、現地の教科書では「元慰安婦」として紹介されることが多い。

本紙は、この意図的強調について、現地の教科書や元慰安婦の立場から、現地の状況を調査した。

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。しかし、現地の教科書では「元慰安婦」として紹介されることが多い。

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

インドネシア元慰安婦ルポ番組(上)

本紙は、この意図的強調について、現地の教科書や元慰安婦の立場から、現地の状況を調査した。

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。



元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

登録2万人にも

アンケート設問もすそん

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

プリスル
検証

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

元慰安婦の立場から見ると、現地の教科書は、元慰安婦として紹介されることが多い。

元慰安婦、夜は将校…

東京地裁で

在日の朝鮮人元慰安婦として日本政府に謝罪を求めて提訴している宋神道（ソン・シンド）さん（73）が、

いま、中国・武昌の軍事裁判所へ連れて行かれた。

官、午後八時から夜中の十

日本後、東京地裁で開かれた第十二回日韓紛糾の本人

の間仕切りは軍人が行い、軍医が慰安婦の検査をして

いた。初潮を迎えていた

宋さんは、十六歳から二十三歳まで、日本軍の慰安婦をさせられた。國のた

めに戦地で働かないか」と

言われて、何も知られな

手だったという。文字が読めない宋さんだが、記憶している部隊の名前を、「四〇師団、六師団、九師団、三師団、四師団……」と挙げ、岳州に移された後は、軍部隊だつたと証言している軍人の個人名も明らかにした。

また「金は一錢も受けていな」と断言した。

傍聴席で聞いていた藤原彰・元一橋大教授は「部隊名はいずれも戦史と一致す

る。本人の憶念に反して連れ出されたこと、商行為な

どではないことはつきりしたのでは」と話した。

在日の朝鮮人元慰安婦として日本政府に謝罪を求めて提訴している宋神道（ソン・シンド）さん（73）が、

いま、中国・武昌の軍事裁判所へ連れて行かれた。

官、午後八時から夜中の十

日本後、東京地裁で開かれた第十二回日韓紛糾の本人

の間仕切りは軍人が行い、軍医が慰安婦の検査をして

いた。初潮を迎えていた宋さんは、十六歳から二十三歳まで、日本軍の慰安婦をさせられた。國のためには戦地で働かないか」と言われて、何も知られな

ったといろ宋さんが泣いておられた。

朝の七時から午後五時ま

で、一船兵士の相手をさせら

Ex-sex slave takes the stand

Tells court she was beaten when refusing to provide sex

A former Korean sex slave testified at a court hearing Friday that Imperial Japanese Army soldiers said while forcing her to have sex that they would rather die in bed with her than perish on the battlefield.

Song Sin Do, 73, currently a resident of Miyagi Prefecture, was testifying for the first time since filing a damage suit with the Tokyo District Court in April 1993.

She is the only Korean resident in Japan involved in a series of damage suits filed by former "comfort women" against the government.

Song, who claims she was forced to serve as a sex slave for seven years through the end of World War II, is de-

manding an official apology and ¥120 million in damages.

During the hearing, Song testified she was recruited by a female Korean to work in China at age 16, without being informed exactly what she would be doing.

She said she was first housed in a brothel called "Sekaikan," in Wuchang, a city along the Yangtze River, along with 15 other girls. Later she was taken in military trucks to several other brothels in different cities, she said.

Japanese soldiers came to the brothels from morning till night, and she was obligated to service them no matter what her state of health. She claimed to have had sex with

as many as 70 soldiers a day.

She was not paid for her efforts.

Whenever she refused, the soldiers and brothel managers beat her, sometimes threatening to kill her, Song claimed. The repeated beatings left her hard of hearing. She put on a hearing aid during her testimony.

Referring to a group of Japanese war-displaced orphans currently visiting Japan, she said they reminded her of a child she gave birth to in China during the war. Song said she gave her baby away 20 days after the birth because she knew she could never raise a child in the circumstances in which she found herself.

1965.7

斜断機

「従軍慰安婦」問題をめぐる最左派の論客が登場しました。『闘争するフェミニズム』の著者・大越愛子女士がその人です。『批評空間』(太田出版)第1号に掲載された「『従軍慰安婦』問題のボリティックス」という廢物めいた論文は、出るべくして出たポスト・モダン左派のマニアエストと言えるでしょう。

大越愛子で、「慰安婦」＝性賃労働を根底から覆そうとしています。即ち、そうした女性達は、たまたま走戦地軍の管理下にあつた娼婦なのではなく、強制運行され、強制労働を強要された被害者だと語ります。「この国境の世代の女性学者によると、「従軍慰安婦」は、家長的体質の近代國家の計画的性管理政策の結果であり、最も露骨な形態の「性の政治」だといつてあります。

彼女のこのでの真島の荒さが、國連人権委員会のラディカ・クマラスワミ(スリランカ)報復に弱いをえたものであるだけば、申すまでもありません。尤

も「従軍慰安婦」制度を既成事實とし、

軍事的性奴隸制と決めつけた上で、人道に反する罪と定めさせたのがクラスリ

ミ報告書で、大いに問題だったのです。

大越愛子から、戦時期の日本との制度が存在し、それは民間業者による商行

がといった論法を許さぬ国家であるのが犯罪であるという結論を導き出します。

制度というからには、それがどうよう

な経緯でいつ定められたのかを検証す

るのが当然です。大越がやっているのは

一切の検証をぬきにした、イデオロギー剥き出しの性の政治学にすぎません。こ

れでは、彼女の批判する秦郁江の論法を頗るとは不可能です。何故なら、秦

や藤岡信勝はそんな制度は存在せず、被

害者と称する人々の延喜がテタラメであることを、現地に足を運んで検証しているからです。大越愛子は、例えば秦郁江の元日本兵の延喜を、他人の著書から引用して事実と認定する学者以前の運動者にすぎません。

二 ニ ミ エ ツ の 悪 売 動

(3)

藤岡教授の歴史観めぐり

三連休最終日の四日、早一日の「史観」論争を考える稻田大(東京都新宿区)の一「近現代史の再構築」と学園祭「早稻田祭」で、公は何か?」が、自由主義史開シンポジウム「戦後5年 魏研究会代表の藤岡信勝・早公開

感情論で議論拒否

東大教授らが講師として招かれて開かれた。同大のサークル「歴史学研究会」主催で、学生ら約百五十人が参加。初めに「日本がすべて悪かった」という「東京裁判史観」や、すべてよかつたという「大東亜戦争肯定史観」もどちら「日本がすべて悪かった」とする藤岡教授と、「自由より人権が重要」と正夫・八千代国際教授らが基調講演を行った。

藤岡教授は、「明治維新など」自國の苦難の歴史への基本的な共感、愛情が教科書に欠けているのが根本的な問題」と話した。

続いて質疑・討論に移り、日本の近現代史をどう評価するかについて、活発な意見交換が期待された。しかし、会場からは「(慰安婦問題などをめぐる)教授の感性が許せない」などと藤岡教授への感情的な批判が相次いだ上、司会者が発言を求める藤岡教授を避るなどしたため、議論にはならなかつた。

同会幹事の教育学部の学生は開会前、「藤岡先生の主張に疑問があつたので、直接、批判してたまでもいいと考えた」と話していました。

出し成立を期す。省庁再編
・統合は法案成立後5年以内に実施する。

(2) 政治改革：社民党が提案している企業・団体献金の即時全面禁止。政治資金規正法付録の第10条において、法律施行後の年をもってこのことを踏まえ、自民、さきかけ両者は政治資金のあり方について今後、改めて協議を進める。衆参選舉制度は選舉定数の削減を前提にし、民意がより国政に反映されるよう、早急に選舉制度見直しを開始する。

③国会改革＝法律案の質

否について、クロスボーティング（党派非拘束による交差投票）の活用の方策を検討し、すでに合意している議員提出法律案ではその促進を図る。国会に行政の監視・監督・評価を行う機関を設置することを、そのステップを強化する。

④消費税改革等二點

⑤平和外交、中韓関連

歴史認識は95年8月15日の村山富市首相談話を基本とすえアジア電視の外交を開。戦後問題の残された課題に関して検討する。日米防衛協力のための指針の見直しは憲法や集団的自衛権に関する政府解釈を前提にして行われる。日米地位協定についても個々の問題ごとに日米合同検討会を設立して、それの改修を図る。

⑥社会政策＝選挙的夫婦別姓制度導入などを内容とする既法改正は国民生活や

日本の伝統文化に大きな影響があるといふ立憲の意見を聞きながら検討する。
①環境政策＝略
②農業政策＝略
③女性政策＝男女共同参画社会を実現するための「女性基本法」制度。これらの提案等についてもおむね合意する。
④教育問題＝略

政策立案部会
自民・社民・さきかけ3
自民・社民・さきかけ3
党の政策合意の範囲は次の通り。
【前文】の整理立政策は、「建立政治第一期」として黄体で重ねて2年余の間に、55年体制ではなし得なかつた多くの制です。

のいひをなしあげた。(以
下略)
一、懇親会意願項目4項目
二、新たに交渉して協議
した事項
①介護保険制度を次期確
立を期す
時国会に法案を提出し、成
立を期す
②田舎法改正法案及び大
蔵省設置法改正法案を次期確
立を期す
通院国会に提出し、成立を

自民・社民・さきかけ3
党の政策合意の範囲は次の
通り。

【前文】の整理立政策は、「建立政治第一期」として黄体で重ねて2年余の間に、55年体制ではなし得なかつた多くの制です。

女性政策推進

社説

・社民党中央部で会談。自民・社民・立憲が三党の政策協議の場で、女性政策の推進を働きかけることで一致した。室井氏は、さあがけとして、政府の男女共同参画審議会の答申に基づく「女性基本法」の制定を締理府の男女共同参画室の権限強化などを新たに提案する方針を説明した。土井幹昌は社民党としては男女雇用機会均等法の見直しなどを提案する者を表明した。

歷史認識

村山談話」を踏襲 自社さ一致 女性基本法制定へ

自社さ一致 女性基本法制定も

自民、社民、新党さきがけ三党は十九日前、都政権を前提にした二回目の内閣、歴史認識について、昨年に発表された村山首相(立派な内閣のホテルで、第一次橋本政策協議を行った。)の結一年八月十五日の終戦記念日

「ふう、西服姿が上等だ。」
「うーん、理屈を張るだ

民族が、ア
ジア諸国に多大の損害と苦
難を与えた」などを軸として、
た村山首相談話を中心にして、
える」といふわけだ。「内
外の戦争犯者に対し道義
的責任に基づく国際的な償
いを行う」との内容を含意
に盛り込もうと主張した。

内で行うべきを議論した。
社民党が提案した沖縄の
米海兵隊の縮小・撤退に向
けた田中交渉を記念する所
については、國民は、「米
軍のアジア・太平洋での兵
力展開については、縮減で
きるより外交努力を行ふ。
結果としてさざななる縮小を
図る」との表現で社民党の
理解を求めた。

時)の談話は階級する」と本法の制定をはじめ女性政策の充実に積極的に取り組むことで合意した。ただ、女性問題と「アジア電視の外交を開する」ことで合意した。

女性基本法制定は決議されが提案したもので、①社会別による園のない社会の構築の男女共同参画による政策決定——などの推進をつたう。

仲間問題では、振興策で何とかの合意を得ることで一致だが、具体的な合意案を作成(三十日)を持ち越された。日本防衛協力のための指針ガイドラインの見直しについては、憲法の松

の四回目の協議で、「これまでの論議を整理、三党政策での協議の設置について最終的に結める予定だ。

歴史認識について、社

日本人の自觉

ぬぐい去の時代はならぬ
い。それが日本の将来のた
めだといひと自覺すべ
きである。

え、「日本人の自覚」を取
り戻せと声を大にして叫び
たい。ほうっておけば取り
返しづらい三つの「

十月二十一日付「主張」と「産經抄」を再読のう

(元教員) しまう。

向井氏は、政権の座を確かになものにしたいために、いろいろな見覚と政策協議をしてゐる。その中で、社民党などとの関係を重視しているようだが、どうしても我慢がきかないことがある。

それが、一本柱首材の左年
八月の談話室を基本とする」
という歴史認識に関するく
だりである。総選舉により
て社民党は没落した。国民
が支持をしたかったところ
によるとあるのに、「うつづか
ことを基本とするのは、日本
本を死滅渡す」として断じ
い。やつと選舉による政權
が生まれようとしているの
だ。

また、靖国神社公式參拜
について、あいまいながら
も前回同じ公約した自民党
は、自民党幹事長謝罪外交を

卷之三

元防衛大教授

柿谷歎夫
57

元防衛大教授
柿谷勲夫 57
(茨城県土浦市)
自民党は「第二次橋本内閣」
に向けて、社民、さきがけ両党
との政策協議を行ふ。社民党に
すすめり、昨年八月十五
日に村山富市首相(当
時)が出した「過去の侵
は水と
る。
にむけ
る。」(6
会見だ

自民の「村山談話」基本は公約違反

会党が作成した「国会決議実現
のむけ」を読んだものであ
る。

壊滅的な惨敗となつた。加藤祐一幹事長をはじめとする国民党執行部は、当然「国会の議席を保持しているが、半数決實現にむけて」を熟読して、参院ではそれ相当の社民黨は、参院ではそれ相当の議席を保持しているが、半数決實現にむけて

以上は四年前の議席で、民意がいるはずである。それを承知のうは懸け離れており、やがて消え行く運命にある。そのような政党になぜ一番大事な歴史観ですり替ったのか。明らかに公約違反である。

この意見に対し、「連立政権上上で妥協したもので、支持者に対する背信行為である。」の意見に対し、「連立政権を生きがいとしてきた土井たか子氏が「森口五郎・元共和副幹事が長男にあてた手紙」という

「基本は公約違反」の本質が、たにもかかわらず、加藤幹事長の「やみ黙金騒ぎ」を追及しないのはいかなるわけか。極めて不思議である。



KIM SUN GIL receives ¥35 at a municipal social insurance office here. Kim claimed the money from his contributions to a pension fund during World War II. KYODO PHOTO

Japan pays ¥35 wartime dues claim

NAGASAKI (Kyodo) A South Korean man on Tuesday received what he demanded from the Japanese government: A symbolic but paltry ¥35 he claims is due him after

withdrawing from a pension fund he paid into while serving as a conscripted laborer during World War II.

Kim Sun Gil, a survivor of the atomic bombing of Nagasaki.

saki, was given the payment at the Nagasaki Municipal Government's Kita Social Insurance Office.

The Social Insurance Agency said it sent the notification to Kim in response to his application for a withdrawal allowance made to the agency's Nagasaki office in April 1984.

Kim was drafted for compulsory labor at a Nagasaki shipyard in January 1945 and paid installments into the pension plan during the subsequent seven months.

The agency in January resolved to pay the claim, but suspended the payment after the Foreign Ministry warned that such action might conflict with a 1965 Japan-South Korea treaty on the right to claim compensation, in which individual property compensation claims were nullified.

Agency officials said the decision to pay the claim is based on an interpretation of the 1985 treaty by which the matter falls outside the treaty's scope.

10/30/1963 T.T

いと同様、厚生年金規定がない支払われる三十五歳内と、外債は、の問題まで人の財産権

〔叢書中の
「新編和漢書」
は著者に記載

は隠
ひんじ
山田
やまだ

少額

だが大

人きな
が、企圖
めて財産
した人に
で開拓的
かでも

な意味

味

ある。また、その上に、
は、その上に、
いを求
が、あた
の間に、
は、また、
は、また、

筆者は新規加入の
他の新規加入者
が迷っており、交
換の新規加入者
がこれもひと
して、その他の新
規加入者も迷う

1996年(平成8年)10月29日(火曜日)

社会保険庁

厚生年金脱退手当35円

當時朝倉公宣がいたる御年老の時、某は十五田の支度を務めていた。そこで社家に於ては、十六日、金子を奉呈致し、吉田委嘱うと通達した。正月の内、いだくお詫びせぬか、外様の方へ「隣人の御屋敷火災が起つた」と連絡され、幸運いを

申請時に財産権発生

「私にとっては数億円の問題だ。たまに見るやつだ。
八時三十分頃、おもむろに玄関を開けた。中には、

菅厚相に直訴、実る

戦後50年余...頬い届け

1939年6月
(9)

父が呼んでいる

第2次世界大戦で日ソ戦の激戦地だったサハリン

(樺太)のスマルマイフ(気

在)に「樺太・千島戦没者慰靈碑」が建立され、来日した連隊は30人が参加して追憶式が行われる。国費による慰靈碑建立だ。サハリンでは初。半世紀を経て遅

春から約500万円をかけて建設を進めていた。

サハリンンドが、一つ400年8月9日、参議を決めた連軍が南下を開始。北緯50度の國境(当時)に近いスミルマイフで日本軍と激突し、戦は同19日まで続いた。元樺太師団幹部の記

念の父片桐正輔さんは戦後、政治犯として捕獲、収容所で死亡したが、このほ

サハリンの日ソ激戦地

戦没者慰靈碑

国費で初



「没落式」には感動的な言葉が語られた

族の願いがかなった。厚生省によると、慰靈碑はコンクリート製で全長14メートル、高さ4メートル、船をかたどった手サイン。

樺太・千島での戦死者は軍人・軍属、民間人も含めて約4500人に上ったとされ、戦友会や連隊会が以前からの慰靈碑建立を要請。今

春から約500万円をかけて建設を進めていた。

日本人の建国運動を進める「日本サハリン同胞交流協会」(東京都港区)から奈

良津子さん(61)=東京都三鷹市=が参加する。奈良津

さんの父片桐正輔さんは戦後、政治犯として捕獲、収容所で死亡したが、このほ

どで、この戦闘で日本側の犠牲者は約500人の上

いたとされる。ソ連軍の死者は9人の慰靈碑は毫もなく

父が(私を)母へどうじる気の書類が届いた。

父が(私を)母へどうじる気の書類が届いた。

がする。協会のボランティア活動をしてくるお陰で機会に恵まれたが、厳嵩な気持ちで追憶式に臨みた

と話している。

【明治 美紀】

A generation lost in history

By HISAHICO OKAZAKI

A Japanese book on the censorship of history textbooks bears a disquieting title: "Kokumin no Yudan" (A Nation Off Its Guard). The message is this: Those who once attacked the establishment still have something up their sleeves. They have not essentially changed. Unable to brandish the banner of Marxism any more, they are becoming more radical than ever. Now they are absorbed in the rhetorical contempt of Japan. But the public is off guard, unaware of the danger these radicals pose to the nation.

It strikes me as strange that the issue of "comfort women" — a legacy from World War II — has been described in history textbooks for the first time since the end of the war. It is nearly half a century since the death of Joseph Stalin, who tried to get this nation to deny its own history, and five years since the demise of the Soviet empire. The sudden focus on this issue suggests that one-time anti-establishment people are indeed becoming more radical.

I am not suggesting that these people are acting on orders from some secret "command," much as leftist parties and mass media here once took their cue from the Soviet Communist Party. I do feel, however, that these radical elements are bent on imposing their own version of Japan's past on an unsuspecting public, as the book's title suggests.

The underlying problem, as I see it, is a generational one. It has two aspects. First, leaders of the prewar generation — rich in traditional education and discipline — are gone, and so, too, is the salutary restraint they exercised on Japanese thought. Second, those who were educated during the heyday of the Marxist-oriented Nikkyoso (Japan Teachers Union) are beginning to have a profound influence on our society. Among them are former leaders of the radical student movement that swept college campuses in the 1960s.

Those leaders of the prewar generation would be in their 90s and older if they were alive. The men who led the reconstruction and development of postwar Japan belong to this generation. They include, in politics, former Prime



Ministers Nobusuke Kishi, Hayato Ikeda and Eisaku Sato; in business, Toshitomo Doko, former chairman of the Federation of Economic Organizations (Keidanren); in diplomacy, former ambassadors to the United States Takeso Shimoeda and Nobuhiko Ushiba constitute the youngest layer of this old generation.

Men who fought in World War II as soldiers — those in their 70s and 80s — belong to the generation that followed those pioneers. They received a prewar education, but were inculcated with military discipline that discouraged individualism. The common credo at the time was, "Do as others do," or "Don't think you are different from others."

After the war's end, these men became unideological, apolitical, hard-working corporate warriors and contributed materially to Japan's postwar prosperity. However, their conception of war — they think they really know what war is — has

The wartime generation does not really know about war even though it experienced war. The young people of today who have properly studied history know better.

distorted Japanese thinking in the post-war era.

They may be likened to a man who entered a company on the brink of bankruptcy. The company collapsed when he was still a rank-and-file employee. He never got to know company management well and, for that matter, the war itself. All he knows is that life in that company — wartime Japan — was full of hardship and misery.

Foolish men learn from experience, wise men learn from history, the saying goes. The wartime generation does not really know about war even though it experienced war. The young people of today who have properly studied history know better. They do not take the so-called antiwar creed at face value; they are skeptical about those who now say

they know what war really is. It is a pity for these young people that the old generation who really knew is long gone.

The Nikkyoso generation — which began with being forced by Occupation authorities to efface old textbooks with their own hands and ended with the debacle of student uprisings in 1969 — received a left-leaning education at primary and junior high school. These people, now aged 45 through 60, hold responsible positions in all segments of Japanese society.

The growing influence of this "leadership generation" explains why Education Ministry bureaucrats, who in 1982 erupted with anger at Chief Cabinet Secretary Kiichi Miyazawa's conciliatory response to China's criticism of the Japanese system of screening history textbooks, today tolerate textbook descriptions about comfort women. It also explains why the director general of the Cabinet Legislation Bureau unabashedly says that Japan "has the right to collective security but has no right to exercise that right," although his predecessors were unable to say that without a faint smile of self-scorn. With men in their 90s out of the way, such an attitude invites little reprimand.

A word about the generation that was born in the first through the ninth year of Showa (1926-1934). People in this group did not receive military training, nor did they receive a Nikkyoso-oriented education. Their formative years were spent during World War II and in the turbulent postwar years — a period in which nobody forced any ideas on them. They were left to decide for themselves what to study or read. Little wonder that most Japanese opinion leaders have been monopolized by this generation.

I believe this "one-digit Showa generation" ought to set examples, picking up where our predecessors left off. The challenge for us in this group is to build a bridge between present and future generations while encouraging the development of constructive elements in the Nikkyoso generation. By doing so, I believe, Japan will be able at last to resolve its postwar ambiguities.

Hisahiko Okazaki, former ambassador to Saudi Arabia and Thailand, now serves as special adviser to Haikuhodo, Inc. The Japanese version of this article appeared in the Seiron column of the Sankei Shimbun on Oct. 28.

1/5/96 J.T.

12

Head of sex-slave fund set to receive top award

1/3 '96 J.T.

The state will grant its highest award today to a retired politician currently heading a government-initiated private fund to compensate Asian women forced to provide sex for Japanese soldiers before and during World War II.

Bunbei Hara, 83, president of the 15-month-old Asian Women's Fund, will be awarded the Grand Cordon of the Order of the Rising Sun, Paulownia Flowers, the highest decoration given to people outside the Imperial Family, for his long political career, officials said.

Hara retired from politics in July last year after serving 24 years as a House of Councilors member from the Liberal Democratic Party, holding the post of Upper House president during the last three years.

Hara is among the 4,516 Japanese citizens, including 259 women, who will today receive this fall's semiannual decorations in return for their contributions to the state and society.

The Grand Cordon of the Order of the Rising Sun, the second highest decoration, will go to eight people — six incumbent and former politicians, a diplomat and a for-

mer Supreme Court justice.

Among the eight people are special government representative Nobuo Matsunaga, 73, who once served as vice foreign minister and ambassador to the United States and Mexico, former International Trade and Industry Minister Toshio Komoto, 85, and former Construction Minister Koken Nosaka, 72.

Those who will receive other awards include Daisuke Shimozuru, 72, a professor emeritus at the University of Tokyo, who will receive the Order of the Sacred Treasure, Gold and Silver Star for contributions to the field of earthquake prediction in quake-prone Japan.

Film director Takashi Kawamata, 70, will be awarded the Order of the Rising Sun, Gold Rays with Rosette. Kawamata's recent renowned pieces include "Black Rain" (1989), which details the plight of survivors of the 1945 Hiroshima atomic bombing.

Top award winners will take part in a ceremony Wednesday to receive their decorations from the Emperor. Winners of the second level of awards will accept their decorations the same day

from Prime Minister Ryutaro Hashimoto, while the rest will get their awards between Wednesday and Monday from Cabinet ministers and other officials.

Japan also gave semiannual decorations to 39 foreigners, including nine women, for promoting their countries' friendship with Japan or helping to develop this country.

There are 14 from the United States, five from France, four from Germany, two each from Austria, India and Paraguay and one each from Brazil, Belgium, Canada, Columbia, the Czech Republic, Egypt, New Zealand, Peru, Sri Lanka and Thailand.

Former Austrian Foreign Minister Alois Mock, 62, will receive the Grand Cordon of the Order of the Rising Sun for promoting Japanese-Austrian ties.

The Grand Cordon of the Order of the Sacred Treasure will go to former New Zealand Ambassador Roger Peren, 71 as well as former Paraguayan Foreign Minister Luis Maria Ramirez Boettner, 78, and former Organization for Economic Cooperation and Development Secretary General Jean-Claude Paye, 62, a French national.

元慰安婦支援へ募金

（8月19日）

川崎市
職員ら

国民基金に異議

元従軍慰安婦への償い金を支給する「女性のためのアジア平和国民基金」（チー・シア女性基金）と反対する川崎市職員のが独自の「川崎市民基金」を発表させ、元慰安婦たちを支援する募金活動を始めた。

チー・シア女性基金に対する批判は「民間基金であって、國家補償ではない」「政府が法的責任を回避するために設立したものだ」などの批判が相次いでおり、多くの元慰安婦たちが償い金の受け取りを拒否している。

しかし、被害者の多くは貧しく、高齢化も進み、償い金を拒否しながら国家賠償を求める運動を続ける川崎市職員たちは、川崎市民基金を発表させ、元慰安婦たちを支援する募金活動を始めた。

チー・シア女性基金に対する批判は「民間基金であって、國家補償ではない」「政府が

法的責任を回避するために設立したものだ」などの批

判が相次いでおり、多くの元慰安婦たちが償い金の受け取りを拒否している。

川崎市民基金をつくりたのは、元慰安婦たちの生活（分からぬ）の家」の上映会をこの8月に川崎市で開いた実行委員会の十人、同市役所市民局の山田實夫

さんである。職員組合のシンクタンク「川崎地方自治研究センター」の職員たちで、ソウル市内で元慰安婦たちが共同生活をする「チー・シアの家」を訪れ、上映会に来た市民たちの感想文を渡すなどして交流を重ねてきた。

集まった資金は、アジア女性基金に反対する韓国の市民団体が集まつてつづった「日本元慰安婦問題の正しい解説のための市民連絡会」に送金するという。問い合わせは、川崎地方自治研究センター（044-244-7610）まで。

Kan criticizes war museum project

Health and Welfare Minister Naoto Kan voiced concern Tuesday over the national war museum project, saying Japan needs to build a war document center focusing on the history of Asian countries.

Construction of the War Dead Peace Memorial Hall in Tokyo's Kudanshita district began Monday.

Kan, commenting on the project during a regular news conference, said, "(The theme of the hall) is organized to deal with the domestic war experience (of the Japanese). If we have only this hall, it could develop into an international problem."

The planned memorial hall has drawn criticism from historians and peace groups both at home and abroad because it will depict the wartime hardships suffered by the Japanese but not the people of other parts of Asia.

Kan said the government should push for construction of an Asian history document center, as promised in 1994 by then Prime Minister Tomiichi Murayama as part of projects to commemorate the war in order to deepen mutual understanding with other parts of Asia.

10/30 '96 J.T.

東京・九段南に建設を予定しながら着工が遅れている「慰安婦退院平和祈念館」(仮称)について、地元住民らは抗議

住民らは抗議

祈念館が着工

の理解はおむね得られた」として本格着工に踏み切った。眞理や運営母体などがあぐり反対してきた地元住民や平和団体は、連絡会などの市民団体は、現地で抗議集会を開いた。平和祈念館は、今年五月

の着工を予定していた。しかし、地元千代田区議会が着工見合わせを求める意見書を可決したほか、周辺住民らが建設差し止めの訴訟も起こしていた。この日も、工事中止を求める市民約三十人が九段会館前の工事現場で抗議声明を読み上げた。

日韓の歴史共同研究

11/6 '96

開催見通し立たず

有識者の人選難航

昨年十一月末、大阪で開催されたアジア太平洋経済協力会議（APEC）では、日韓両国が歴史共同研究の早期開催で合意してから間もなく一年になるが、開催の見通しは依然、立っていない。韓国側が当初、政府主導方式に固執したのに加え、日本側の民間有識者の人選が難航しているという事情もある。今月末、マニラで開催されるAPEC期間中の日韓首脳会談でも、具体的な開催日程の合意に至るのは難しそうだ。

歴史共同研究をめぐっては、日韓両国政府が今年六月二十三日に韓国・濟州島で行われた橋本龍太郎首相と金泳三大統領の首脳会談で、民間有識者による会議を早期に設置することで合意した。この際、韓国側は強硬に主張していた政府主導方式に固執するのは複雑でないとの判断、「政府は資金面で努力するだけで、民間の学者が自立的にやるのが現実的だ」（金眞中外務省アシスタント）として、民間主導を擁護する日本側に大陸は歩み寄つを見せた。

これを受け、池田行蔵外相も直後の政府与党閣僚連絡会議で、「年内に第一回会合を開催する」と報告するなど、開催に向けた動きが一転し、急ピッチで進むかに見えた。

しかし、外務省が大学教授、マスコミ関係者、作家、芸術家ら、歴史学者に広くリストアップ、内々に打診したといい、「意義深い会合だが自分では役不足」「歴史認識は本来、多種多様なもの。韓国側と何を話し合うのか趣旨がよく分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。背景には、民間ベースと相も直後の政府与党閣僚連絡会議で、「年内に第一回会合を開催する」と報告するなど、開催に向けた動きが一転し、急ピッチで進むかに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、芸術家ら、歴史学者に広くリストアップ、内々に打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

足」「歴史認識は本来、多

種多様なもの。韓国側と何

を話し合うのか趣旨がよく

分からぬ」「なぜ的理由

に離退者が相次いだ。

背景には、民間ベースと

相も直後の政府与党閣僚連

絡会議で、「年内に第一回

会合を開催する」と報告す

るなど、開催に向けた動き

が一転し、急ピッチで進む

かに見えた。

しかし、外務省が大学教

授、マスコミ関係者、作家、

芸術家ら、歴史学者に

広くリストアップ、内々に

打診したといい、「意義深

い会合だが自分では役不

アジアの子供や女性の生活向上目指し新学会

タイの町工場で働く少年たち



11日、東京で設立総会

大きな社会・経済変動を受けるアジア諸國の人々の生活向上を目的とした「アジア社会福祉学会」が発足する。十日午後二時半から東京都港区の日本学术会議場（地下鉄丸ノ内線）で設立総会と記念シンポジウムが開かれる。

事務局長の日本社会事業大の萩原康生教授によると、東南アジアを中心とするまことに経済発展をとげたが、貧富の差は大きく、児童労働や過酷な重労働があると絶たない。同学会は各國の研究者・専門家が研究成果や情報を交換して、社会的弱者である子供や女性などの生活環境改善を図る目的で設立されることになった。

毎年二回、各國持ち回りでセミナー・シンポジウムを開き、交流する計画である。

記念シンポジウムは「アジアにおける社会福祉の研究と実践への期待」をテーマに中國、香港、韓国、フィリピン、シンガポール、タイ、日本の研究者が話し合う。年会費は一般三千円、学生一千円。

問合せは、同大社会事業研究所（〇四一四一九一〇六二二）アカス四四

石川の「セクハラ」訴訟
2審も社長に慰謝料を命令

石川県珠洲市の女性（35）が、勤めていた鳳至郡鶴来町の建設会社の社長（52）からセクシーショアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたとして慰謝料五百万円などを求めていた控訴審

判決によると、女性は一九九一年に入社し、社長宅で施政婦の仕事についた。その後から社長に体を触られるなどした。同年三月末に暴行されそうになつてから言い争うようになり、八月に職を股られ、九月中旬に解雇された。

金沢地裁鶴来支部の判決では、初めて「セクハラ」の悪葉を使って被害を認定し、八十万円の慰謝料を支払うように命じていた。

の判決が三十日、名古屋高裁金沢支部であった。笹本淳子裁判官は「ゼクハラ」の言葉は使わなかつたが、男女暴行未遂の事実などを認め、「行為自体が違法で人格の尊厳性を損なう」と、社長と同社に百三十八万円を支払うように命じた。